

# 葡萄酒の香



日本基督教団  
酒田教会

〒998-0037  
酒田市日吉町  
1-1-7  
TEL 0234-22-1224  
牧師 塚本恭子

## 主は魂を生き返らせる

牧師 塚本恭子

聖書 詩編23篇

主は私を青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる。

○主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

詩編の作者は、主は牧者である。裁き、正義、怒りの神ではない。私たちを愛し育む羊飼いであるといえます。マルチン・ルターは、この詩編を読んだ作者は、この時代にすでに主なるメシア、キリストを預言して、この「羊飼い」とは、メシアであるキリストのことを呼んでいるといえます。当時の羊飼いととはどんな人であったかとい

うと、羊は他の家畜と違って放牧で飼うので羊の世話が大変でした。羊飼いは、その日、羊の餌である緑の野の草を求めて移動し、一日一回は水場に導いて水を飲ませるのが仕事でした。そして羊飼いは当時ユダヤ社会から罪人と差別されていた人たち。

羊飼いは遊牧の民であったことで戸籍登録をしていなかったため、国や神殿に税金を納めない人たちでした。それ故に律法を守らない人たちといわれて、ユダヤ社会のなかで罪人とされてきました。不思議なことですがその羊飼いにメシアであるキリストがたとえられています。

○わたしには欠けることがない。

「乏しきことあらじ」が文語訳ですが、乏しいことを知っている者が、その乏しいことを否定する事が出来るのです。現在の私たちは物が豊かに与えられて乏しさを忘れていきます。当時の人たちは、食べるもの、

飲む水、住む場所など衣食住すべてが、不足していたのです。その日の労働でその日の食事を得て生活していました。その衣食住に足りない生活をしている者が神の前に立つて乏しくない、足りているといっています。彼はこれらの欠けたものは神の霊によって満たされていますとい、たとえ肉なるものが乏しくても神の霊が満たしているから十分に足りていますという。

○主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴う。

青草とは神の言葉、憩いの水のほとりは永遠の命の湧き出るところ、主は私たちの群れをその青草と憩いの泉をもって育ててください。そこには神の言葉が豊かに語られ、主の愛は、私たちの乾ききった魂を愛し育ててくれます。サタンに引き裂かれた心を癒やしてくれます。聖霊の力が働き、私たちの心に神の霊が宿り、私たちの心の内に信仰の実を結びせてくれます。

ヨハネ福音書10章27節に「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う」とあるが、キリストが私たちを知っているの

で、私たちはキリストに導かれています。主はあなたの名を呼ぶ方、牧者で、私たちは羊であります。パウロはキリストとの愛において「どのような力も私をキリストから引き離すことは出来ない」と断言しています。

○その霊は私たちの魂を生き返らせてくださる。

私たちのすべての試練と艱難の時、主の霊は私を助け、私を慰め、私の心を安らかにして下さいます。そして、私たちの信仰を確かなものとして下さいます。私たちは神に一方的に祈るだけではありません。私たちが試練や困難にある時、主は私たちに呼びかけています。主は霊的賜物である恩寵をもって私たちの信仰を強めてくれます。その時、私たちの魂は喜びと希望が与えられ、主の霊は私たちの魂を生き返らせて下さいます。

○主は御名にふさわしく、わたしを正しい道に導かれる。

主が私たちを正しい道に導かれるとは、私たちが脇道に迷い出ないで、そのまま滅びの道を歩まず、偽りの霊に支配されるこ

となく、また誘惑や躓きによって墮落することなく正しい道に導かれると言われます。ルターの解釈では「主は私たちがどのような生きたら良いかを教えて下さる。主は人生の正しい歩みを私たちに教えて下さる。信仰とは何かを導いて下さる。そして私たちに礼拝がなぜ必要であるかを教えて下さる。そのためキリストは聖霊の働きで私たちを支え私たちを導いて下さる」といわれます。

○死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない。

死の谷の陰とは、死への旅路。どんな人でもひとり歩む死への道です。私たちの死路は、愛する者であっても共に歩むことが出来ない。この詩ではその道は暗い谷、谷の陰と表現されています。光もない、慰めもない、希望もない。人生の憂愁と悲しみと不安と困難に囲まれたような時が誰にでもあると詩人はいいいます。しかし、彼はそのような時にも災いも恐れないといっています。この状況は、今すでに最悪の状態であるのに、災いを恐れないといっています。それは、たとい私たちの試練がもつと大きくなり、艱難がもつと多くなっても、あるいは

私たちの肉体の痛みが増し加わっても、すでに死の谷の道に差し掛かって、私たちに主にあるものは災いを恐れることはないです。それは主と共にあるからです。いつも主が私たちを包んでくれているから私たちは災いを恐れない。主の力は強く偉大です。どんなに苦難にあっても私たちの十字架を主は共に背負ってくださいます。それ故にどんな災いを恐れることはないのです。

○あなたがわたしと共にいてくださる。

私たちの神は、神殿やお寺や神社に住む神のように鎮座して動かない偶像ではない。私たちの魂に挑んでくる、働きかける主なる神です。私たちの主は私たちと共にいて下さる神、インマヌエルと呼ばれる神です。ブルトマンが言っているように、神は最も遠いところに存在する方でありながら、私よりも私に近いところに存在する方なのです。私たちの人生の道連れになつて共に歩んで下さる方で、死の道の道連れになつて下さるといわれます。

(2014年1月5日新年礼拝要約)

## 受洗にあたって

齋藤正典

2013年12月22日。クリスマス礼拝の日に受洗出来たことは、71歳の生涯の中で大きな節目であり喜びでありました。妻・和子の誕生日が12月21日。彼女への贈物になったことも嬉しく思います。

和子との結婚は1970年の6月16日。東京の日本聖書神学校のチャペルで、篠原牧師の司式で多くの方々から祝福を頂戴して、温かい結婚式でした。この日からキリスト教への私の思いを更に強くしたものです。

私の実父は宗派にこだわらず、多様な宗教に対して深い理解力と造詣に富む人でした。そのため彼の学生時代の最良の友であり、キリスト者である義父との信頼関係を築いて、和子と私を結びつけたのは実父でありました。結婚以前から太田家と齋藤家は交流があり、そうした状況に恵まれたのも二人の出会いには神の導きがあったと信じています。

じています。

私が小学五年生の頃から、父からはキリスト教の世界について何度か話を聞いたのもさもありなんと納得がいきます。

私の家族や妻の兄弟はキリスト者ばかりなので、自然と彼らと共に教会に通うことになりました。

和子と訪ねた海外先でも、現地の教会に出向き、牧師の説教や伝道活動の違いなどに触れたことも珍しいことではありません。

このようにキリスト教の厳しさや寛大さに自然に触れたのも周囲のお陰だと信じています。

受洗が遅れたのは学校の職場環境や齋藤家の事情、家族の不幸等が重なったことも要因ですが、今にしてみれば単なる言い訳にすぎないかもしれません。

その不安定な私を変えて下さったのが、塚本先生との出会いです。又教会員の皆様の気配りとおおらかな雰囲気も大きな力になりました。

高齢者の受洗を家族と妻の兄弟達が我がことのように喜んでくれたことも感激でした。多忙な毎日ですが、生まれ変わった幼い私を今後共よろしく導いて下さるよう宜しくお願い申し上げます。

## クリスマス献金

会計長老 曾根原澄子

酒田教会のクリスマス礼拝は12月22日10時30分から行われ、説教は塚本牧師の「神には出来ないことが何一つない」というお話しでした。フルート奏者や双葉園の聖歌隊の讚美がありました。何よりも嬉しいことは受洗者、齋藤兄が与えられたことでした。感謝です。出席38名で、受洗者の家族や双葉園の父母や遠くからのお客様もあっていつも沢山の方が共にクリスマス礼拝を守りました。礼拝の後は愛餐会が開かれて、演し物など披露して楽しいひとときを過ごしました。

イブ礼拝は讚美礼拝で、牧師と齋藤造酒雄長老による聖書朗読、リコーダーの奏者や独唱などで組み立てられた静かなキャンセル・サービスでした。出席者は21名でした。その夜、教会の玄関で夜空に向かってクリスマス・ソングを歌いました。

さてクリスマス献金は目標額が満たされまして53万円でした。感謝です。

献金は、特別牧師謝儀、近隣の教会2、

山形地区宣共働委員会、社会福祉関係、双葉託児園、双葉幼稚園、教会堂修理・改築などに送金、献金をしました。

婦人会のクリスマス献金は、にじの家、東北教区婦人会、山形「いのちの電話」に送金しました。

## ☆クリスマス献金者名

敬称省略(順不順)

中林撰・チヨ 大沼隆 井田一郎・允子  
目黒正規・怜子 塚本文一 目黒律子 鈴木重良・葉子 宮城光信・妙子 佐藤フサセンタージムキ 海野徳五郎・麗子 庄子美和・愛乃 富樫正博 堀口ふき子 堀口誠治 大高美保子 大高泉 奥山美保子 奥山勘次郎 土門慶子 望月恵子 斎藤政幸・野乃 伊藤誠一・京子 清水俊夫 丸山恵美子 富樫峰子 柿崎育子 那須玲子 今井智代 佐藤加奈 横山とよ子 伊藤唯谷口久美 斎藤恵理香 奥山朋子 塚本恭子 奥山明子 斎藤啓和子 佐藤信子 帯谷修一・美恵子 高橋純子 斎藤正典・和子 曾根原東・澄子 白戸勝芳 斎藤りゑ 斎藤造酒雄 双葉幼稚園保護者 双葉託児園保護者 匿名 以上49組

## 牧師館便り

☆皆様お元気ですか。「葡萄の香」第9号をお送りします。酒田の冬は音を立てて降る雪で始まり、大粒の雪が横から吹き付ける厳しい白一色の世界です。しかし、クリスマス礼拝も、クリスマス・イブ礼拝も天候に恵まれて吹雪にはなりませんでした。去年よりも多くの人が出席して礼拝が守れたことが感謝です。特に、受洗者が与えられ、喜びに溢れた教会員の顔が素敵でした。互いの信頼と信仰が深まりました。

☆クリスマス献金に感謝します。教会員の沢山の献金に加えて、教会付属施設である幼稚園・託児園の教職員と保護者が快く献金して下さったことです。また、牧師の恩師や知人・友人たち、そして牧師の家族・親戚が私を支えてクリスマス献金があったことを覚え感謝です。目標額以上に捧げられましたので、牧師も特別謝儀と図書費を頂きました。感謝です。

☆12月15日に幼稚園・託児園の園児と保護者のクリスマス礼拝を行いました。出席者100名でした。塚本園長の説教「つく屋のマルチン」のお話しの後に、キャン

ドル点火、園児の聖誕劇、先生方の聖歌隊の讚美など保護者が大変喜んでくれました。今年は本間病院のホールでも聖誕劇を行い、牧師がナレーターとソロで讚美歌を歌い、沢山のお年寄りに喜んでもらいました。

☆牧師が最も気にする礼拝者数ですが、昨日(12日)は16名の出席で礼拝を守りました。いつもの8人の教会員に加えて、酒田に住むキリスト者が3名、かつての長老の息子さんや秋田のキリスト者2名、双葉園職員が2名の出席。雪の日だから今日の礼拝も少ないだろうと思って講壇に立つたら、思いがけず多くの人たちに感激しました。自分の愚かさに悔い改めました。

☆酒田は多くの人たちが膝までの長靴を履いて歩き、雪かきをします。私もその長靴を履いてみたが、モモに力がなく足首がうまく仕えず歩けません。大変なのは、愛犬の散歩です。長靴を履いて、雪の中ズボリ、ズボリと。犬と走ることができないので、愛犬のリードを外して日吉山公園で、ノンノンだけが走っています。でも、ノンノンは毛が長いので足に雪玉が沢山つけて雪の長靴を履いているみたいです。最後は歩けない「だっこ」とせがみます。

(牧師 塚本恭子)

